

平成28年度 目黒区・目黒区教育委員会職員訪問団

中国北京市東城区訪問報告書



平成28年7月

目黒区・目黒区教育委員会

目 次

はじめに	-----	P 1
1 訪問の趣旨・目的	-----	P 1
2 訪問日程	-----	P 2
3 職員訪問団の構成	-----	P 2
4 訪問概要	-----	P 3
(1) 東城区人民政府副区長表敬訪問	-----	P 3
(2) 体育施設見学（地壇スポーツセンター）	-----	P 6
(3) 歓迎晩餐会（東城区顔華副区長主催）	-----	P 8
(4) 北京市人民对外友好協会常務副会長表敬訪問	-----	P 9
(5) 文化・体育施設見学（オリンピックスポーツ文化センター）	-----	P 10
(6) 光明小学校本校区（低学年校舎）見学	-----	P 12
(7) 光明小学校本校区（本部）見学	-----	P 15
(8) 中央工藝美術学院附属中学校見学	-----	P 18
(9) 2区（目黒区、東城区）実務者会談	-----	P 21
(10) 3区（目黒区、東城区、中浪区）実務者会談	-----	P 22
(11) 前門大街見学	-----	P 26
(12) 送別夕食会（東城区外華僑事務弁公室主任主催）	-----	P 27
(13) 風尚劇場見学	-----	P 27
(14) 北京喜劇院見学	-----	P 29
5 訪問のまとめ	-----	P 31
おわりに	-----	P 31
参考資料	東城区、日本目黒区、韓国中浪区 3区協力交流の状況報告 王丽萍 東城区文化委員会副主任作成 東城区の教育、文化に関するプレゼンテーション資料 -----	P 32

本報告書の作成に当たって使用した写真は、訪問団員が記録用として撮影した写真を使用しました。

はじめに

北京市東城区と目黒区とは友好都市協定を締結しており、また、毎年、年度協定を取り交わし相互に訪問を行うなどの交流も行ってきた。しかし、東日本大震災の発生以降相互の訪問が途絶えており、ここ数年は子どもたちの年賀状交換や、絵画展の開催のみにとどまっていた。

このため、様々な機会を捉え、改めて目黒区への訪問を呼びかけてきたが、平成27年に入り、東城区長から、現在訪日が困難な状況であり、目黒区の代表団が訪中していただければ歓迎するとの回答を得て、区長、区議会議長あてに人民政府、人民代表大会からそれぞれ招聘状をいただいた。この東城区側からの招聘に基づき、両区の間継続した友好交流関係を築いていくための意見交換等を行うため、目黒区長を団長とする「目黒区友好交流代表団」を編成し、平成27年7月1日から3日にかけて東城区を訪問した。

この訪問では、①今後の友好交流促進に向けた覚書内容の確認のための協議、②東京オリンピック・パラリンピックを控え、子どもたちのスポーツ交流事業や文化交流事業の可能性の検討及びスポーツ施設、文化施設の視察、③東城区、韓国ソウル特別市中浪区と目黒区との3区間での交流の可能性の検討についての意見交換や、情報収集を行い、今後の交流推進の方向性については、当時の張家明東城区長からも賛意をいただいたところである。

今回の目黒区・目黒区教育委員会職員訪問団（以下「職員訪問団」という。）の訪問目的は、昨年の区長同士の懇談内容を踏まえ、日中韓、目黒区、東城区、中浪区の3区間の交流実現に向け、実務者レベルでの会談を行うことであった。また、昨年、目黒区を訪れた東城区教育視察団の要請に応える形で、教育委員会職員、関係校長も、学校施設の視察や教育関係者との懇談のため、東城区を訪問することとなった。

本報告書はこの訪問結果をとりまとめたものである。

1 訪問の趣旨・目的

今回の「職員訪問団」の訪問は、次の5点についての意見交換や、情報収集を行うことを主な目的とした。

- (1) 今後の友好交流促進に向けた協定内容の確認のための協議
- (2) 東城区、中浪区と目黒区の3区長懇談の検討
- (3) 子どもたちのスポーツ交流事業の可能性の検討
- (4) 子どもたちの文化交流事業の可能性の検討
- (5) 今後の教育交流の確認のための協議

2 訪問日程

平成28年7月25日（月）から7月27日（水）まで（2泊3日）

月 日	時間帯	内 容
7月25日（月）	午 前	・羽田空港から出国（JL-021便 9時10分発） ・北京空港着
	午 後	・東城区副区長表敬訪問（東城区応接室） ・地壇スポーツセンター見学 ・歓迎夕食会（顔華副区長主催）
7月26日（火）	午 前	（区） ・北京市人民対外友好協会常務副会長表敬訪問 ・東四オリンピック団地 オリンピックスポーツ文化センター見学
	午 後	・北京市中央工芸美術学院附属中学校訪問 （教育委員会） ・北京市光明小学校訪問 ・北京市中央工芸美術学院附属中学校訪問 （合同） ・東城区との実務者会談 ・3区（東城区、中浪区、目黒区）実務者会談 ・送別夕食会（外華僑事務弁公室主任主催）
7月27日（水）	午 前	・風尚劇場見学 ・北京喜劇院（東方劇場）見学
	午 後	・北京空港から出国（JL-022便 16時40分発） ・羽田空港着

〈参考〉 経費 旅費（11名分）、記念品等 1,543,230円

※両区間の取決めにより、現地での宿泊費、飲食費、車両借上費、通訳士費等の経費は目黒区側の負担。ただし、今回は、通訳士費、飲食費の一部を東城区側に負担していただいた。

3 職員訪問団の構成

（目黒区）

団 長	上田 広美	文化・スポーツ部長
団 員	村上 隆章	文化・交流課長
団 員	山口 英二郎	スポーツ振興課長
団 員	樫本 達司	産業経済・消費生活課長
団 員	松本 俊史	地区整備事業課長

(目黒区教育委員会)

副団長	関根 義孝	教育次長
団員	山野井 司	教育政策課長
団員	田中 浩	教育指導課長
団員	石丸 靖治	鷹番小学校長
団員	永久保 佳孝	第七中学校長
団員	宮本 四郎	指導事務係長

4 訪問概要

(1) 東城区人民政府副区長表敬訪問

- ① 日時 平成28年7月25日(月) 午後3時45分から4時15分
- ② 場所 東城区人民政府応接室
- ③ 対応者 顔華副区長(文化、教育、科学技術等担当)、外華僑事務弁公室主任、教育委員会副主任、文化委員会副主任、財政局副局長、体育局副局長
他



顔華副区長から、「東城区を代表して訪問団を心から歓迎する。旧崇文区と東城区は区域の再編により一つとなった。目黒区との交流は既に長い歴史があるが、これからは双方の努力により、さらに交流活動が推進されると思う。東城区は北京の中心にあり、紫禁城文化であり、旧崇文区は古の北京の風習を伝承している地区であった。近年の発展、変化には大きなものがあり、

天壇公園の周辺環境の整備など各プロジェクトは住民に受け入れられている。

今回の訪問団には、教育関係者が含まれているが、東城区の教育に関する取り組みも進んでいる。優秀な小、中学校の整備も一部に留まらず、バランス良く、広く普及させている。是非、小学校、中学校を見学していただきたい。スポーツ活動もとても盛んである。東城区はスポーツ選手の故郷とも言われている。卓球の世界チャンピオン張怡寧選手も東城区出身である。東城区人民政府の努力により、住民の生活環境に密接な改造プロジェクトを行い、地元住民の満足度も高い。



目黒区と東城区だけでなく、中浪区も交えた交流を進めたいと聞いている。是非、交

流を広げていきたいと思う。今回の訪中の機会に、よく協議をしていただき、3か国、3区の住民のために貢献をしていきたいと考えます。」との挨拶があった。



上田文化・スポーツ部長から、「この度は、顔華副区長を始め、東城区人民政府の幹部の皆様にお会いできて光栄である。今回の我々の訪問を快くお受けいただき感謝申し上げます。昨年、区長、区議会議長を代表とする代表団をお招きいただき、私も同行した。

また、昨年目黒区を訪問された王麗萍教育委員会副主任にお会いすることができ、嬉しく思う。旧崇文区からの交流実績を踏まえ、合併後の東城区においても継続していただけるとお約束いただいている。2011年には東城区人民代表大会の皆様にも目黒区を訪問していただくこととなっていたが、東日本大震災の発生により残念ながら延期となった。以来、相互交流の訪問が繰り延べになっている。子どもたちの年賀状交換や書画交流は毎年継続しているが、友好都市の交流としては相互訪問交流がとても大切だと考えている。昨年の目黒区代表団の訪中により、相互訪問の交流のきっかけが見えてきたと考えている。昨夏には東城区教育委員会の皆様も、また、年末には政治協商会議の皆様も目黒区を訪問された。これで交流が復活できたと確信している。今回の訪問が今後の相互訪問交流をさらに強くしていくものと確信している。今夕には、中浪区の皆様とお会いできると伺っている。明日の午後には、3区間での会談が予定されている。中浪区とは、東城区のご支援の下、2013年の10月に目黒区と交流に関する覚書を交わしている。まだ、東城区と同じように交流実績があるわけではないが、中浪区ともしっかりと交流を進めていきたい。東城区の皆様には中浪区をも交えた会談の場を設けていただきお礼を申し上げます。昨年、青木区長から東城区長に対し、3区間の交流実現について提案したところ、当時の張区長からとても良いことと賛意をいただいた。3区間の交流実現に向け努力してまいります。目黒区でも、子どもたちのスポーツ、文化事業は盛んに行なわれている。2020年には、東京でオリンピック・パラリンピック競技大会が行なわれる。東京大会、あるいはその次の大会に選手として活躍する世代の子どもたちによる、スポーツ交流、文化交流を推進していきたい。明日の会談



ではその点を中心に話し合っていきたい。

また、教育委員会の職員は明日、光明小学校、中央工藝美術学院附属中学校を訪問することになっている。これまでの年賀状交換、書画交流はもとより、これからは、お互いの子どもたちの顔の見える交流の推進について考えていきたい。

これまでの友好交流の絆をより強く、深いものにしていきたいという気持ちを伝え、私からのあいさつとする。」と挨拶した。



その後、意見交換が行われ、子ども達の交流の可能性について、今夕の懇親会、明日の3区会談の場でも議論することとした。そして、青木区長から李先忠東城区長に宛てた親書を手渡すとともに、記念品交換と記念撮影を行い、懇談は終了した。



(2) 体育施設見学（地壇スポーツセンター）

- ① 日 時 平成28年7月25日（水）
午後4時35分から5時45分
- ② 場 所 地壇スポーツセンター
- ③ 対応者 館長、外華僑事務弁公室職員、
他
- ④ 見学内容



地壇スポーツセンターは、①区民のための体育施設の提供、②優秀な選手の育成の場という大きく2つの役割を持つ体育施設である。

スポーツ選手だけではなく、地域住民の朝のジョギングなどにも広く活用されている。また、子どもたちの放課後のスポーツ活動の場にもなっている。

全国民が体を丈夫にするという国のスローガンがあり、みんなそれに取り組んでいる。



屋外には400mトラック、各種陸上競技、バスケットボールコートが設けられている。トラック内の人工芝のサッカー場では、これからリオ大会に向かうという女子サッカーの選手を交えて練習が行なわれていた。

屋内には、レスリング場、卓球場、バドミントンコート、バスケットボールコート、50mプールなどがあり、子どもたちを中心に熱心な練習が行なわれていた。





近年中国では、若い人達は卓球よりもサッカーやバスケットボールの方に関心が強くなってきていると聞いていたが、広い卓球場では、指導者の下、多くの子ども達が熱心に練習に励んでいた。

また、各会場とも、送迎の保護者達が熱心に子どもたちの練習風景を見守る様子が伺えた。母親よりも、仕事帰りの父親の姿が多く見られたのが印象的であった。



(3) 歓迎晩餐会（東城区顔華副区長主催）

- ① 日 時 平成28年7月25日（月）午後6時20分から8時
- ② 場 所 花家酒店
- ③ 対応者 顔華副区長、外華僑事務弁公室主任、教育委員会副主任、文化委員会副主任、財政局副局長、体育局副局長、中浪区訪問団 他

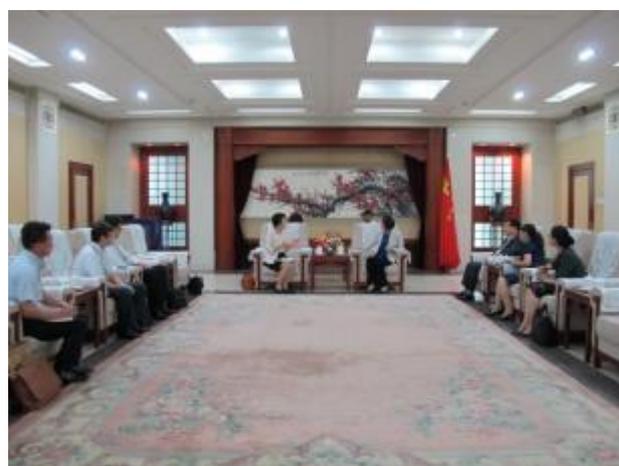
顔華副区長を始めとした東城区の代表、中浪区からの訪問団も交え、会食をしながら、今後の交流促進についての話など終始和やかに懇談が進められた。



(4) 北京市人民対外友好協会常務副会長表敬訪問

- ① 日 時 平成28年7月26日(火) 午前8時55分から9時30分
- ② 場 所 北京市人民対外友好協会
- ③ 対応者 田雁常務副会長、副会長、業務第二部副部長、同科長、外華僑事務弁公室職員、他

永年にわたり、目黒区の日中友好交流事業を側面から支援していただいていた、北京市人民対外友好協会の田雁常務副会長を表敬訪問した。田雁常務副会長は交流派遣職員として東京都庁に勤務していたこともあり、流暢な日本語を話される方である。



田雁常務副会長からは、目黒区や目黒区日中友好協会、そして、東京都日中友好協会の友好交流事業に関する感謝の気持ちを述べられ、また、永年続いている北京市日中友好青少年キャラバンに関する引き続きの支援を求められた。



(5) 文化・体育施設見学（オリンピックスポーツ文化センター）

- ① 日 時 平成28年7月26日（火）午前9時50分から10時40分
- ② 場 所 東四オリンピック団地 オリンピックスポーツ文化センター
- ③ 対応者 館長、外華僑事務弁公室職員、他
- ④ 見学内容

地上5階、地下1階の施設に、バスケットボールコート、バドミントンコート、卓球場、図書館、多機能ホール、青少年交流室、幼児施設等が整備されている。この地域には同様の施設が11箇所あり、それぞれ地域の在住者、在勤者が活用することができる。



東城区の下部組織に街道委員会があるが、この地域は北京オリンピックの際に、大規模に再開発され、新たなコミュニティが作られた。「オリンピック」という名称が付された珍しい社区（コミュニティ）である。大手企業の本社ビルもこの地域には多く存在している。再開発により建設された様々な建築物、公園施設の状況や、逆に昔からの建築物を保存するために地域指定された区域の様子が、建築模型により展示されていた。





バスケットボールコートでは、人民解放軍の創立記念日である8月1日を記念する交流試合に向け、練習が行なわれていた。また、卓球場では地域の高齢者が卓球の練習に励んでいた。



4階には、幼児のための運動、読書等による生活力向上のための教室がある。今の時季はとても暑いので、屋外の遊具で遊ぶ子どもは少ないとのこと。屋内の教室で、保護者とともに集まった子ども達を対象に活動が行なわれていた。



北京市東城区学校訪問（教育委員会職員訪問団）

（6）光明小学校本校区（低学年校舎）見学

- ① 日 時 平成28年7月26日（火）
午前8時35分から9時25分
- ② 場 所 光明小学校本校区（低学年校舎）
- ③ 対応者 光明小学校低学年主任
- ④ 見学内容



(1)

光明小学校は、崇文区時代も含め早い時期から目黒区立学校との交流に関係している学校である。今回の訪問では、昨年9月にできた低学年用の校舎から見学した。途中から中浪区の訪問団も加わり、合同で同校の見学を行うこととなった。（写真(1)）

1・2年生担当で主任の先生の出迎えを受け、校舎内を案内していただく。

玄関を入るとすぐに、玄関横に学校の歴史を伝える写真を掲示してある。（写真(2)）子どもたちや来校者に学校の歴史を伝え、愛校心や先人への想いをもたせる手立てとしては有意義な取り組みであると感じた。



(2)

校内には玄関をはじめ、各所にビデオカメラが設置されている。（写真(3)）特に興味深いのは教室内にも前後にカメラが設置されており、防犯上の意味だけではなく、希望する教員は録画された授業中の画像をみる事が可能となっており、授業中の子どもたちの反応や授業の様子を確認することができる。このシステムは教員が自分の授業を振り返り、授業力の向上を図るために有効なものになると考えられる。

(4)



(3)



(5)

教室には、黒板をスライドさせると出てくるように電子黒板が設置されており、使い勝手も非常に良さそうであった。（写真(4)）電子黒板自体は北京市内の学校にはほぼ全校に整備されているとのことであった。

机は台形の形状のものを円（六角）状に組み合わせ、6人ごとに座るようになっている。（写真(5)）協働的な学習を意識しているものと感じられた。また、教室の前方黒板の上には五星紅旗が掲げられていた。（写真(6)）



(6)

この校舎は以下のような様々な特徴を持つ活動室が設けられており、非常に興味深く見学した。

「香」教室（写真(7)(8)）：週1回50分の興味教室（日本の総合的な学習の時間にあたるものと思われる）を行っている。オープンなどが設置されており、焼き菓子などを子どもたちが実際につくって食べる、食を学ばせる授業を行っている。都会の子どもたちは実物の食材に触れる機会や経験が少ないので実物に触れさせたり経験させる機会をつくっているとのことであった。



「萌」教室（写真(9)）：植物をプランターに植えたり、種から育てたりする活動を行っている。日本の生活科で行うような活動と思われる。高学年児童が科学教室（理科）で使用することもある。



「和」教室（写真(10)(11)）：裁判所の法廷のようなつくりにしてある。自分の考え・意見を発表させたり、議論をさせたりする活動を行う。社会にはルールがあるということを学ばせている。高学年の児童が弁論大会で活用することもある。



「彩」教室（写真(12)(13)）：図工・美術室。ひとつひとつの机の色使いと形が特徴的。三角形の机が、個々にカラフルな色に塗られ、机の組み合わせで様々な形と色の組み合わせが表現できるようになっている。



(12)



(13)

「泉」(写真(14) (15)) : オープンスペースを活用した図書コーナー。本は知識や好奇心の泉であると考え、「泉」と名付けているとのことであった。



(14)



(15)

「美」教室 : 廊下を挟んで、舞台もある多目的活動室(写真(17) (18))と音楽室(写真(16))の二つの教室がある。ここでは踊ったり歌ったりする活動を行っている。体育館の無いこの校舎では雨天の際には、ここで体を動かす活動(体育)を行っているとのことであった。(写真(19))



(16)

廊下に掲示されている児童の絵を見ると同校が工夫している環境の影響なのか、非常にカラフルな印象を受けると訪問団の感想を伝えると、1・2年生が対象なので色と形にこだわっているとの答えがあった。(写真(20))



(17)



(18)



(19)



(20)

「玩」教室（写真(21)(22)）：遊んで学ぶ教室。様々な玩具が置いてあり、それらを使って学ばせる教室。新入生には、数がまだ習得できていない段階で玩具を使って数の概念や形を理解させるような活動を行っているとのことであった。このような教室は、日本ではみることはなく非常に興味深く見学した。



(21)



(22)

「徳」特別会議室：教員用のミーティングルームや準備室代わりに使っているとのこと、保護者会などにも使用している部屋である。

トイレの中も見学させてもらう。個室トイレは中国の独特の形状となっているが、さらにシャワーも設置されているところなどは印象に残った。（写真(23)）

このように、2015年9月から運用がはじまったという同校校舎は費用もかけて非常に実験的な取り組みを行っているとの印象を受けた。そのまま取り入れることは難しい面もあるが、ヒントになることは多くあり、予定の時間を超えての見学となった。

低学年校舎の見学を終え、車で数分の本校舎(本部)に移動する。



(23)

(7) 光明小学校本校区（本部）見学

- ① 日 時 平成28年7月26日（火）
午前9時30分から10時30分
- ② 場 所 光明小学校本校区（本部）
- ③ 対応者 東城区教育委員会海外国内交流担当副主任
光明小学校書記、光明小学校副校長

④ 見学内容

光明小学校の本校舎（本部）では、東城区教育委員会交流担当副主任、光明小学校書記、副校長の出迎えを受け、中浪区の訪問団とともに見学をする。（写真(24)）

昨年本区を訪れた学校長は出張中であり、副校長の案内で校舎内を案内していただく。



(24)



(25)

玄関を入ると低学年校舎と同様に、玄関横に学校の歴史を伝える写真や卒業生の写真が掲示してある。（写真(25)）子どもたちに学校の歴史を伝え、愛校心や先人への想いをもたせ、地域の方からも愛される学校としての取り組みであると再度感じた。

学校の校舎や教室のつくりはオーソドックスなもので日本のそれと大きく違う印象は受けなかった。教室の電子黒板は低学年校舎とは異なり、黒板の横に設置されていた。（写真(26) (27)）



(26)



(27)

児童の主体性を育てるという観点から、児童が考えた標語などが校舎内の様々なところに掲示されている。また、低学年校舎と同様、廊下のスペースを使った図書コーナーもあり、児童が推薦する図書の推薦文なども掲示している。さらに、徳と健康を教育の方向性に掲げる同校では、児童の体力向上用に設置された興味深い用具（写真(28)）などもみられた。

時間の関係で本校舎見学は駆け足となったが、その後、教育委員会副主任の進行で、副校長からパワーポイントを使って同校の概要、教育理念、実践の説明を受ける。（写真(29)）



(28)

光明小学校は、1959年に創立。現在、光明小学校本校区（本部）、光明小学校本校区（低学年部）、光明小学校広渠校区及び光明小学校和義校区の4か所に分かれている。本校区の二校舎に加え、分校を含み光明小学校となっている。4校舎全体で58クラスあり、児童数2,014名、教職員数は、199名である。現在、寄宿舎機能も持った5つ目の分校を建設している。



(29)

同校は、北京師範大学教育実験基地、第一回中学小学校優秀伝統文化教育研究基地、全国優良学校などに指定、表彰されており、北京市の中でも中心的な小学校に位置付けられている。

教育理念「光明・自らやり遂げる人間」、教育哲学「徳を先んじ、児童を主体とし、健全育成に努めること」、教育の方向性「徳と健康」を掲げて日々の教育活動に取り組んでいるとのことである。

15分ほどの説明を受けた後、簡単な質疑を行った。主な質問に対する回答は次のようなものがあった。

- ・管理職は何名か → 管理職は全体で校長1名と副校長2名。
- ・寄宿舎には誰が入るのか → 寄宿舎は、中国では共働き家庭が多く、両親、祖父母等が面倒を見られない家庭も多いため、申請を受け家庭の状況を判断しながら受入を決めている。市内には全員寄宿生だけの学校もある。
- ・教室に設置されたカメラで教室の様子を撮っているようであるがどのように活用しているのか → 記録した映像は、授業・子どもたちの様子を確認し、授業改善に活かしている。その活用については教員の自主性に任せている。
- ・素晴らしい施設を持たれているが学校の予算はどこで管理しているのか → 基本的には区が管理している。特別なプロジェクトは国や市に別途申請することもある。

質疑応答の後、記念品を交換し中浪区訪問団とともに記念撮影をして同校を後にする。



(30)



(31)

(8) 中央工藝美術学院附属中学校見学

- ① 日 時 平成28年7月26日(火)
午前11時05分から13時30分
- ② 場 所 中央工藝美術学院附属中学校
- ③ 対応者 中央工藝美術学院附属中学校長
- ④ 見学内容



生徒がデザインした紙コップ

中央工藝美術学院附属中学校では、予定が早めに進んだ区長部局職員訪問団も合流し、中浪区訪問団と合同での見学となった。(写真(32) (33))

中国の教育制度は、6・6(3・3)制となっており、小学校6年と中・高一貫の6年(初級(中学)3年、高級(高等部)3年)が一般的となっている。

同校は中央工藝美術学院附属の中・高一貫校として、1,200人の生徒が工芸・美術の専門的な教育を受けている。



(32)



(33)

校内見学に先立ち、学校長からパワーポイントを使った同校についての説明を受ける。(写真(34))

同校は美術教育とともに、国際理解教育にも力を入れている。2008年長野オリンピックでの一校一国活動を機に長野県柳町の中学校とホームステイによる相互交流を行っている。ソウル市の学校とも交流しており、アメリカへの夏季キャンプなども行っている。



(34)

カリキュラムは一律のものではなく、選択制のカリキュラムとなっている。生徒の自覚自主を向上させる教育に取り組み、個性を最大限に活かすようにしている。生徒に決まった教室はなく、自分のハウス(ロッカー)が与えられており、自分の受ける授業の教室に移動していく。

アメリカの哲学・教育学者であるジョン・デューイの教育思想「学校とは社会であり、教育とは生活である」という理念を尊重し、知識習得偏重でなく自主性を重んじる教育、合作やプロジェクトの手法を用い協働学習にも取り組んでいる。

また、学校として自主的に教材も出版し、全国的に広く使用されている。

生徒の多くは大学まで進学し、最終進路は、絵画、アニメーション、建築、舞台芸能、

メディアなどで幅広く活躍しており、日本へ留学する人やアニメ業界へ進む人もいる。
学校長からの学校紹介の後、校舎内を見学する。

地下にある図書館は、芸術・美術の図書を中心に、5万冊の蔵書を持ち、コンピューターによる蔵書管理が行われている。日本に関する美術書などもある。日本のアニメはここでも関心が高く、複数の蔵書が配架されていた。(写真(35) (36))



(35)



(36)

校庭をめぐる回廊には、石のベンチが置かれ、その表面には漢詩などが刻まれており、生徒の拓本の実習にも使われている。(写真(37) (38))



(37)



(38)

文昌書院と名付けられた書の実習室では、壁面に見事な書・作品が飾られ、レベルの高い作品を生み出すべく初級(中学)の生徒たちが真剣に取り組んでいる様子が目に浮かぶようであった。(写真(39) (40))



(39)



(40)

書の実習室に続き、生徒の作品ギャラリーを見学する。高級（高等部）の生徒の作品が中心であるが、中学生の作品も展示されており、いずれも素晴らしい作品であった。デッサン・絵画が中心であるが、デザインの作品も展示されており、まさにミニ美術館にいる思いであった。（写真(41) (42) (43)）



(41)



(42)

校内見学の後、普段は生徒たちの給食に使っているカフェテリアで昼食をとる。（写真(44)）

ここで、区長部局職員訪問団は先に東城区との2区懇談に向う。教育委員会職員訪問団は、同校との懇談の後、記念品の交換を行い、3区懇談の会場に向った。（写真(45)）

今回の学校訪問は、夏季休業中のため、子どもたちの授業風景を参観することができなかったが、一方で施設内に入り、じっくりと施設の様子を見学し、多くの興味深いものを見ることが可能となり参考とすることができた。今回の訪問で得た刺激・ヒントを今後の教育活動・教育施策の向上に活かしていきたい。



(43)



(44)



(45)

(9) 2区(目黒区、東城区)実務者会談

- ① 日 時 平成28年7月26日(火)午後1時50分から2時20分
- ② 場 所 東城区東方嘉事務所
- ③ 対応者 (東城区)外華僑事務弁公室主任、外華僑事務弁公室副主任 他

3区会談に先立ち、友好都市関係にある目黒区と東城区に関する課題についての会談を行なった。



始めに、上田文化・スポーツ部長から、①2011年9月に締結した協定書について、有効期間は5年で今年の9月に満了となる。しかし、協定では自動更新できることとなっているので、改めて協定を交わすことなく、引き続きこの協定を継続していくという考えでよいか。②相互訪問交流について、旧崇文区当時のルールで目黒区の区長、区議会、東城区の人民政府、人民代表大会の4者がそれぞれ交互に訪中、訪日を行ってきた。それが東日本大震災以降途絶えている状況だが、順で行くと東城区側(人民代表大会)が訪日することとなっている。この考え方を継続してよいか。③3区交流の機会を捉え目黒区、東城区、中浪区の代表としてそれぞれの区長が、今後の交流推進のために集まり会談を行ないたいと考えるがいかがか。④協定書を自動更新して行くと2021年には旧崇文区当時から数えて30周年となる。記念すべき年にしたいと考えるがいかがか。と尋ねた。

これに対し、饶景东外華僑事務弁公室主任は、①相互交流訪問については賛成する。これまでの流れが復活するように努力したい。②来年の訪日については、原則として可能と考える。ただし、東城区の場合、人民政府、人民代表大会だけではなく政治協商会議という機構もあり、それぞれによく相談しないとイケない。ハイレベルのメンバーによる相互訪問交流を進めたいという考えは同じである。③我々の考えでは、具体的な交流実績、成果を踏まえ、その上で区長が会談し、さらに交流を深めていくための方策を話し合う。そういう進め方が良いのではないかと考えている。④賛成である。よく計画を立てて盛大に行ないましょう、と応えた。

上田文化・スポーツ部長から、重ねて、①昨年暮れに、政治協商会議の代表が訪日しているが、それを代表団の実績として捉えるならば、来年は目黒区長が訪中するということも考えられる。来年のことは改めて検討していただき、東城区側に訪日の意向があれば相談をするし、もし、来られないなら目黒区長が訪中するということによいか。②目黒区長の意向として、李先忠東城区長に、是非一度目黒区にお越しいただきたいと考



えており、それをお伝え願いたい。と述べた。

これに対し、饶景东外華僑事務弁公室主任は、①目黒区長が来られるなら、熱烈歓迎する。両区の交流については、ハイレベルの責任者がお互いに訪問しないと何もいえない。両区の実情に合わせて、それぞれの益々の発展に協力していきたい。中身のある交流を深め

ていきたい。具体的な時期については検討したい。②親書もいただいている。ご意向は区長にお伝えします。と述べた。

その後、両区の人口や面積、商業や住環境等区の特徴、文化・スポーツ振興への取り組み等に関して懇談を行い2区会談を終えた。

(10) 3区（目黒区、東城区、中浪区）実務者会談

- ① 日 時 平成28年7月26日（火）午後2時30分から3時55分
- ② 場 所 東城区東方嘉事務所
- ③ 対応者 （東城区）外華僑事務弁公室主任、文化委員会副主任、教育委員会副主任、財政局副局長、体育局副局長、他
（中浪区）行政局長、生活福祉局教育支援課長、行政局文化スポーツ課図書館チーム長、同生活体育チーム長、行政局総務課職員、他



会場に、目黒区、東城区、中浪区の青少年の文化・スポーツ交流に関する実務者が一同に会し、3か国語対応のための同時通訳が列席、イヤホンで翻訳を聞きながら会談が進められた。

始めに、各区それぞれの列席者を紹介し、各区の青少年の文化・スポーツ交流に関する考え方を説明した。



目黒区の考え方について、上田文化・スポーツ部長から、スポーツ交流について、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会、そしてその次の2024年の大会で活躍できるような世代の子どもたちのスポーツ交流を行いたい。時期については来年の夏休みに、種目は卓球、バレーボール、バドミントンで、3か国の子ども達が集まったの交流としたい。対象年齢は、日本でいう中学校1、2年生、目黒区で実施したいが東城区、中浪区でも良い。実施に当たっては毎年各区の持回りで順番に行う。費用負担は各区がそれぞれ行い、参加する子どもたちからの参加費徴収は各区の判断とする。できれば、期間中に一泊でもホームステイが行なえると良い。文化の交流については、学校ごとに合唱や吹奏楽を行なっている。それを各区のホールで発表しあう。また、併せてその国の伝統文化も披露しあう場としたい。スポーツ、文化の事業を同時に行なうのは大変なので、隔年で交互に行なってはどうか。来年はまずスポーツからスタートしたい。



中浪区の担当者からは、中浪区においても、青少年の生活スポーツは活性化している。40数校ある中学校の内、18校で特徴的なスポーツに取り組む活動も行なっている。バレーボール、バスケットボール、サッカー、バドミントン、陸上、剣道、アーチェリー、ホッケー等に熱心に取り組んでいる。友好交流のチャンスを多くの子どもたちに与えてあげたい。2017年にスポーツ交流を行ない、その翌年に文化交流を行なうことは大賛成である。文化交流については、美術について特徴のある学校があり、

日本の特定の学校との交流も検討している。音楽等に励んでいる子どもたちにも交流のチャンスを与えてあげたい。スポーツは夏の時期が良いと考える。



また、参考として、中浪区で行なわれたソウルバラ祭りのイベントの記録DVDが披露された。

東城区から、饶景东外華僑事務弁公室主任が、今回このような会談を行い青少年のスポーツ・文化交流について議論することは初めてのことであり、重要な意義がある。長い交流の歴史を、さらに深い交流とし、青少年交流を盛ん

なものにしていきたい。2015年に東城区の当時の張区長と目黒区の青木区長が懇談した内容について、本日具体的に決めていきたい。

青少年交流は、文化・スポーツで進めていきたい。それは、国同士の関係を良くするものでもある。友好都市の基礎の上に立ち、交流を深めていきたい。

交流項目としては、スポーツ、音楽。種目として、サッカー、バスケットボール、バレーボール、バドミントン等、また、楽器演奏についても異議は無い。互いに学びあい、欠点については補うようにしていきたい。ホームステイについても良い提案であるとする。交流の実施時期については、夏休み（7、8月）としたい。交流団の人数をどうするか、費用をどうするかは後で相談したい。交流を3区交代で行なうことについても賛成である。東城区が場所を提供する場合はその費用は一切かからない。なお、渡航費、宿泊費、食費については派遣区が負担という考えを基本としたい。

ここで、王丽萍文化委員会副主任作成の東城区の教育、文化に関するパワーポイントを使用して、プレゼンテーションが行なわれた。（別紙参照）

この後、来年度事業の具体化に向け、さらに活発な議論が行なわれ、2017年度の会場区は既に今回、目黒区、中浪区が東城区の会場を視察しているので東城区で行なうこととした。競技種目については、実施種目や同時に行なう種目数等様々な議論があったが、適当な参加人数、雨天



に影響されない屋内競技、各区の中学校の状況を踏まえて、バスケットボール1種目で合意した。男子、女子の各チームとし、年齢を2017年時点の中学校2年生、14歳以下とした。年齢については、それぞれの国の状況で、進学のための受験対応で中学3年生が参加しにくいことによるものである。ホームステイについては、良いことだが様々な相談も必要になることから、それぞれ持ち帰ることとし、開催区である東城区において中心的に検討することとなった。会場費用については東城区が負担、参加者費用についての考え方は各区対応とした。

また、東城区側から、来年の3月から5月にかけて、専門チームを編成して目黒区及び中浪区を訪問し、スポーツ施設、文化ホール等の見学を行ないたい、との申し出があった。その際、饶景东外華僑事務弁公室主任に対し、是非団長として目黒区にお越しく下さい、と伝えたところ、もしかしたら今年中に日本に行くことになるかも知れないとの返答があった。

その他事項として、田中教育指導課長から、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、今回訪問している鷹番小学校が中華人民共和国について学習、交流する小学校になっている。そのため、昨年、東城区側から交流提案のあった光明小学校と本件についての交流をしたいがいかがか。との問いかけに対し、東城区側から、昨年目黒区を訪れた際、碑小学校を訪問した。東城区の光明小学校と姉妹校提携をしたいと思うがどうか、との申し出があったが、上田文化・スポーツ部長は持ち帰って研究させていただきたいと返答し了解された。



また、同様に第七中学校についてもオリンピック・パラリンピック関連の交流校を紹介してほしいとのお願いについても了解され、第七中学校の特徴に合わせて選定していただくこととなった。

さらに、中浪区から、美術に関する特徴を持った女子高等学校がある。年に一度は海外交流を行なっている。国内でも非常にレベルの高い進学校でもある。その学校と相談した上で、国際交流のことを提案していきたい。東城区、目黒区にその学校と交流するのに適切な学校があれば是非紹介してほしい、との申し出があった。

(11) 前門大街見学

- ① 日 時 平成28年7月26日(火) 午後4時から5時
- ② 場 所 前門大街
- ③ 対応者 外華僑事務弁公室主任、外華僑事務弁公室副主任、中浪区訪問団、他

3区実務者会談を終えたあと、会場近くの前門大街を見学した。かつての内城の正門である前門(正陽門)の前に繁華街が形成されており、1930年代の街並みが再現されている。復元された路面電車に乗り、漢方薬や造り酒屋など歴史ある老舗の店舗や、最新のコーヒーチェーン店が街並みに溶け込んでいる様子などを車窓越しに見学した。



(12) 送別夕食会（東城区外華僑事務弁公室主任主催）

- ① 日 時 平成28年7月26日（火）午後5時から6時30分
- ② 場 所 鮮魚口「便宜坊」
- ③ 対応者 外華僑事務弁公室主任、外華僑事務弁公室副主任、中浪区訪問団、他

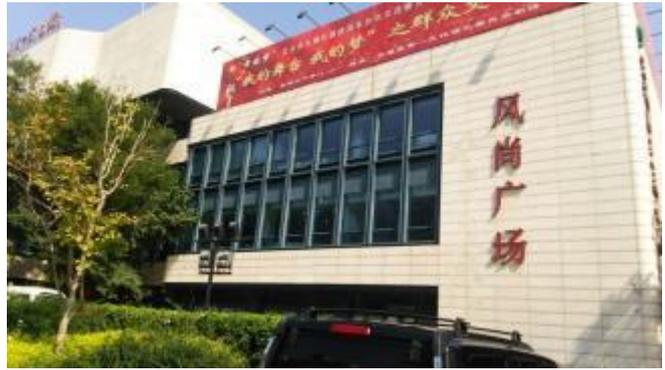
会食をしながら、本日の3区会談の成果を踏まえ、今後の交流促進についての話など終始和やかに懇談が進められた。



(13) 風尚劇場見学

- ① 日 時 平成28年7月27日（水）午前8時50分から9時35分
- ② 場 所 風尚劇場
- ③ 対応者 館長、外華僑事務弁公室職員、中浪区訪問団、他
- ④ 見学内容

1990年に建設された施設で、2008年の北京オリンピックに合わせ改修された。施設外観はグランドピアノをイメージして作られている。ホールは650㎡あり、様々な用途に併せて使用できるよう折りたたみ式の座席300席が採用されていた。



舞台上のコーラス用の台が電動で上下して収納される仕組みや、舞台が前面に拡張されるように工夫されていた。また、大スクリーンは全面 LED になっていた。



ホールの利用は、東城区が行なう青少年音楽祭などのイベントのほか、地域住民の日頃の文化活動の発表の場として、また、東城区内にある企業の従業員の文化活動の場として活用されており、利用率は80%以上である。つい、先週には北京市の国際吹奏楽音楽祭が行なわれ、日本の代表団3団体も参加したとのことである。他に新劇や喜劇的オペラなどの公演が行われている。

また、毎週末の土曜には漫才大会があり、30元（400円程度）で楽しむことができる。文化館に所属する18の運営団体による様々な公演があり、週末の漫才大会以外はすべて無料で参加できるとのことであった。



ホール以外にも、文化活動を行なう諸室が整備されていた。



(14) 北京喜劇院見学

- ① 日 時 平成28年7月27日（水）午前9時55分から10時50分
- ② 場 所 北京喜劇院（東方劇場）
- ③ 対応者 院長、監督、外華僑事務弁公室職員、中浪区視察団、他
- ④ 見学内容

この劇場は、中国国家大劇院（人民大会堂に隣接する国立劇場）の分館であり、同様に国立の劇場である。監督は大劇院から派遣され、大劇院の運営方針に沿った運営が行なわれている。座席数は1,100席である。

年間に、200回程度の演劇（喜劇）が上演されており、北京市民に大変な人気を博している。海外の著名な団体や、国内の著名な団体などの公演も行っているが、そればかりではなく、小さい頃からの子どもの教育、中国の伝統文化を伝える事業も行なっている。水田に大量の水をまくのではなく、少しずつ水を流すような、そんなやり方で、子どもたちに平均的に影響を与えていくという理念で事業を進めている。





従前は北京東方劇場という名称で様々な演目を行なってきたが、1年前から喜劇に特化した劇場となり、北京喜劇院と称するようになったものである。

日本の著名な作家である東野圭吾の「白夜行」など人気のある作品は、お客様の上演リクエストが多く、それに基づき演じられるものもあるとのこと。

舞台上は当日の夜の公演に備えて、セットが組まれていた。楽屋の様子なども拝見させていただき、見学を終えた。



5 訪問のまとめ

今回の職員訪問団の訪問目的は、昨年の区長同士の懇談内容を踏まえ、日中韓、目黒区、東城区、中浪区の3区間の交流実現に向け、実務者レベルでの会談を行うこと、教育委員会職員及び学校長による学校施設の視察や教育関係者との懇談であった。



目黒区、東城区、中浪区の3区の実務者による青少年の文化・スポーツ交流についての話し合いは、それぞれの区の実情を踏まえながら積極的に行なわれ、一定の方向性を導き出すことができた。また、3区の区長が一同に会することについても、近い将来の課題として共通に認識することができ、それぞれ大きな成果であった。

また、文化・スポーツを中心とした施設見学や、学校訪問についても、各施設で丁寧な対応をしていただき、見聞を広める良い機会となった。

今後は、次年度の事業実施に向け、両区と連携しながら着実に準備を進めていきたい。

おわりに

今回の訪問は、昨年の区長同士の懇談内容の実現化に向け、実務者レベルでの会談を行うこと、教育委員会職員及び学校長による学校施設の視察や教育関係者との懇談であった。

東城区の区長や、外華僑事務弁公室主任は異動により新任となったが、前区長からの交流推進に関する指示が徹底されており、各担当者ともその実現に向け協力的な姿勢であることが強く感じられた。外華僑事務弁公室を始め人民政府の皆様には、訪問行程調整、見学場所の手配、歓迎会の開催など、経費負担も含めきめ細かく大変親切に対応していただき、改めて感謝の念を強くしている。

また、職員訪問団の訪中日程に合わせ、中浪区でも派遣団を編成し、話し合いに参加していただいた。今回の3区の実務者会談は、両区のご協力により達成することができた。両区の担当者に感謝するとともに、側面から支援していただいた駐日本国大韓民国大使館自治協力官室にもお礼を述べたい。

今後の交流事業を着実に実施し、東城区、中浪区との友好交流をさらに発展させていきたい。

東城区、日本目黒区、韓国中浪区 3区協力交流の状況報告

東城区教育委員会副主任 王麗萍

2016年7月26日

尊敬する日本目黒区、韓国中浪区の皆様、ようこそ東城区にお越しくださいました。

東城区は首都の中心城区（内閣府や共産党の重要機関が集中し中国の中枢を形成しております）。東城区の教育は、歴史が長く、文化的基盤も深く、教育の資源が密集しています。そのため、国際化、現代化が進み、教育水準が高く、北京市の先頭に立っています。

東城区に、135の学校（各種）があります。教師と生徒、学生は合わせて、約12万人います。有名な学校や伝統と歴史のある学校も多数あります。「百年の歴史を持つ学校」は18に上ります。もっとも古い「府学胡同小学校」は600年あまりの歴史があります。

東城区は、（従来の受験教育に対して）素質（資質）教育を実施しております、教育のバランスが取れている発展戦略を堅持します。「学区化管理」、「青空プロジェクト」、「私ができる（I can do）」、「調和がとれている教育」、「楽しい教育」、「高い志（大志）を抱く教育」等の素晴らしい経験は全国に大きい影響を及ぼします。

東城区は国際交流と協力についてしっかりと着実に教育しています。今まで、30以上の国・地区の小中学校と友好校・姉妹校関係を結び、毎年世界各地からの教育関係者や政府訪問団2,000人余りを受け入れています。東城区の教員・生徒は、海外へ姉妹校や国際教育交流の活動に参加に出掛ける人数が、毎年平均2,000人余りです。また、アメリカ・カナダ・イギリス・オーストラリア・シンガポール等で海外研修センター10か所以上を設立しました。

豊富な国際理解教育プログラム、生き生きとしたバイリンガル教育に取り組み、英語を普及させるうえで、フランス語・ロシア語・アラビア語・スペイン語などの選択科目もあり、学生たちの個性化学習により広いプラットフォームを提供しています。

東城区と日本、韓国との友好交流は長い歴史を持っています。前世紀90年代に、東城区と日本目黒区、韓国中浪区と友好都市の提携を結んで以来、すでに20年以上経ちました。3区政府の共同の努力で、中日及び中韓の青少年における友好交流活動は盛んに行われており、特に芸術・スポーツ分野において、数多くの友好交流活動を展開してきており、大いに成果をあげました。

日本目黒区とは、青少年書画作品交換展示や年賀状交換の活動は長年続けてきた定番交流活動です。1994年光明小学校と目黒区中根小学校は友好交流関係を結び、以降20年以上にわたり、両区指導者レベルにおける訪問を何度も行い、学校間の交流も光明小学

校の1校から、現在の中学校2校（第一中学校、龍潭中学校）と小学校3校（光明小学校、花市小学校、回民実験小学校）へと拡大し、目黒区と様々な交流を展開してきました。

とりわけ2015年7月、私と光明小学校等の学校校長先生と6人で、目黒区文化交流課や、碑小学校、月光原小学校、げっこうはらこども園を見学し、実りのある訪問となりました。滞在中、私と貴区の担当責任者と懇談し、長年続けてきた両区青少年書画作品と年賀状交換交流の成果や、教育・芸術・スポーツ分野における協力の将来性など、今後中日両国における青少年芸術スポーツ交流活動を深めていくことについて、意見交換をしました。

韓国中浪区とは、両区も長年の緊密な交流を保ってきました。中浪区指導者は何度も東城区を訪問し、経済・文化・スポーツ分野において交流を深め、更に、東城区にある名門広渠門中学校も視察しました。両国の関係が益々密接になるにつれて、我々はソウル特別市教育庁とともに10数回の北京―ソウル青少年スポーツ交流大会を行いました。北京市第五中学校男子バスケットチームと韓国ソウル景福高校男子バスケットチーム、北京景山学校男子バレーボールチームと韓国文一高校男子バレーボールチームは親善試合を行いました。バレーチームは韓国文一高校男子バレーボールチームと親善試合を行う際、チームメンバーは全力を尽くし、技巧を研究し合い、高い実力とご健闘ぶりを見せてくれました。中央工芸美術学院附属中学は、2009年から東城区の代表として、韓国ソウル鍾路区と“中韓中学生日常式交流イベント”として数回にわたって行われました。中韓両国の学生はお互いの学生ファミリーにホームステイをし、自ら異国文化を体験し、両国の学生の友情を深めることができました。

この数年にわたって、3国の青少年交流イベントによる多大な結果をもたらしたため、さらに、2013年に張家明様は東城区区長に就任以来、東城区、目黒区と中浪区の3区間の幅広い交流に力強くサポートして頂き、中では特に青少年の合唱、民族楽器演奏と青少年スポーツプロジェクトを提唱し、3区で順番に青少年スポーツと文化交流イベントを行うことになりました。

芸術とスポーツ分野での特徴も東城区教育で力を入れるスポットライト。金帆芸術団は北京市学校芸術教育のシンボル。現在、東城区では26団の金帆芸術団（そのうち23団は請負学校である）を持っており、北京市内全金帆芸術団の20.5%の割合で占めており、他区と比べてトップになっています。中には、バンド4団、マーチングバンド1団、交響楽団2団、舞踏団6団、現代劇団5団、民族楽器演奏団2団（二十七中学校、五中分校）と合唱団6団（一七一中学校、汇文中学校、文汇中学校、灯市口小学校、史家胡同小学校、一師附属小学校）で構成されています。終了したばかりの北京市第19回学生芸術祭公演では、東城区の6団金帆合唱団請負校全部が金賞を取得しました。特に一七一中学校はもっとも優秀で、これまで連続で3回も全国公演で合唱金賞を取得しました。民族音楽チー

ムの場合、五中分校が今年の4月に終わったばかりの全国小中学校の芸術公演の中で、民族音楽チームで金賞を取得し、素晴らしい実績を残してくれました。

スポーツ分野では、東城区では各学校に多様なスポーツプロジェクトを立ち上げ、室内と課外活動を豊かにするとともに、子ども達を引きつけて、積極的に体を鍛えるようになり、青少年の個性を最大限に生かす道を作りました。東城区では毎年定例の青少年スポーツ試合を開催し、主にフットボール、バスケット、バレーボール、陸上競技、縄跳び、羽根蹴、オリエンテーリング、武術と剣道など14項目で行われ、参加人数延べ3万人近く参加しました。現在、東城区の小中学校でフットボールチームを持つ学校は20校近くあり、内2校（安外三条小学校と崇文小学校）は全国レベルとなり、ほかに市レベル模範校は10校があります。試合について、景山学校バレーボールチームは2015年の全国中学生バレーボールチャンピオンシップで優勝を獲得しました。また、今年も中国中学生が参加する2016年世界中学生バレーボールチャンピオンシップに参加する予定です。史家胡同小学校アイスホッケーチームは北京市アイスホッケーリーグ戦のAグループチャンピオンで優勝を獲得しました。また、府学胡同小学校のチアリーディングは全国チアリーディングチャンピオンで優勝を獲得しました。二十二中学校の男子バスケットボールチームは、北京市バスケットボール選手権大会で2位を獲得し、そして史家胡同分校のフットボールチームも北京市5人制サッカー小学校チームで4位を獲得しました。

芸術の教育を多彩化し、スポーツ項目も多様化を目指して、今まで大いに発展してきました。私は、東城区の豊富な芸術とスポーツ資源を持ち、将来では3国の青少年教育交流と協力するきっかけになると信じております。また、3区側の自治体または地方政府により力強く働きかけで、青少年の間の芸術とスポーツ交流協力は必ず3区の区民間の友情の懸け橋になると信じております。そして、3区の民間交流と協力し合いにも積極的な働きかけになると思います。

この度、東城区、目黒区と中浪区で初めて3区会議を行い、日韓両区のリーダーたちが同時に代表団を率いて東城区へご来訪することにより、目黒区と中浪区両区の自治体及び区民たちは日中韓3国の古くからある友情を大切にしている証になるに違いないと思います。今後、東城区政府に引率されることにより東城区教育委員会は貴区との友好交流をもっと深めたいと思います。その場合、3区の各教育理念特徴を考慮し、芸術とスポーツ教育のスポットライトを見つけ、教育分野の交流と協力をもっと深めていき、そして芸術とスポーツ分野で更なる協力できる機会を探っていきたいと思います。

両区の代表団は北京と東城区に滞在する間に、より多く東城区の優秀な学校を訪問していただくことにより、東城区教育分野でより良い印象を残して頂ければ幸いに存じます。

最後に、両区代表団ご訪問の成功を心からお祈りしております。